



視覚障がい者の交通機関利用の現状と課題

安間 和奏

スパーシア入社前に卒業論文として「視覚障がい者の交通機関利用の現状と課題」について、調査、研究した内容を紹介したい。

障がい者の移動の制限

近年、身体に障がいを抱える人の割合が増加している。今後、高齢化や人口減少が進めば、後天的に障がいを抱える高齢者のさらなる増加や介助者の減少が予測され、障がい者の外出機会が失われてしまう恐れがある。厚生

労働省が行った身体障害児・者実態調査の調査では、約四割の人が「外出時に困ることや不満に思うことがある」と回答し、その理由としては「乗り物の利用が不便」「人の混雑や車に危険を感じる」といった交通の課題を選択している。これらは主に視覚障がいを持つ人が直面している課題である。視覚障がいには加齢により誰もが後天的に抱える可能性があるため、すべての人に関連する課題だ。視覚障がい者が移動の制限を受けずに生きていくた

めの社会に変えていく必要があることから、現状と課題を把握するために調査を行った。

障がいの理解

健常者五十一人にアンケートを行ったところ「普段から点字ブロックの上には立ち止まらないうように気を付けていますか」という問いに対して、約二

割が「いいえ」と回答。実際に点字ブロック上に立ち止まっていて人と視覚障がい者がぶつかる事故も少なくない。また、アンケートでは視覚障がい者への声のかけ方がわからない、困っている時の合図である白杖のSOSシグナルについて「知らない」という回答も多く、視覚障がいの理解は十分ではない。

外出についてのヒアリング

視覚障がいを抱える三名の方（二名は先天性、一名は後天性）

に鉄道やバスの移動でのトラブルや不安の経験についてヒアリングを行った。駅のホームからの転落、乗降の際のすき間や段差、駅やバス停の情報案内、点字ブロックに対する健常者の理解不足など多くの課題があげられた。このような課題による不安から後天性の方は一人で外出することができないとのことだった。

障がい者への対応

国はホームドアや音声案内装置の設置を鉄道会社に求めている。しかし、莫大な費用がかかることから関東圏や関西圏以外では設置が思うように進んでいないのが現状だ。最近ではコストを抑えたサービスとして一部の駅でスマートフォンが活用され始めている。点字ブロック上に貼り付けら



東京外口東池袋駅の点字ブロックとQRコード

れたQRコードにスマートフォンをかざすことで、音声案内装置に代わる仕組みである。

ユニバーサル社会の実現に向けて

円滑な移動のための設備の整備のほか、設備で補うことのできない部分を駅員や他の利用者がサポートも必要である。障がい特性の理解が深まり、配慮やサポートが広がることで、交通機関を利用した障がい者の社会活動、旅行への参加を促進することができると考える。しかし、障がい特性を理解するための機会や知識は興味、意欲がなければ得ることができない。ユニバーサル社会の実現には、ユニバーサルデザインやバリアフリーを推進する以前に、障がい者へ歩み寄り、寄り添うことが必要である。



名鉄瀬戸線大森金城学院前駅ホームの隙間